

シニア

脳梗塞や外傷で脳にダメージ



白山靖彦教授

脳梗塞や交通事故などの外傷で脳がダメージを受け、記憶力や注意力が低下する高次脳機能障害。約束を忘れたり、会話が噛み合わなかったりするものの、外見からは障害が分かりにくいため誤解され、日常生活で大きなトラブルを招くケースがあるという。患者の社会復帰には、周囲の理解と適切な対応が欠かせない。

(山口和也)

「高次脳機能障害」といった障害がある。医学が進歩した今も、ダメージを受けた脳を修復する方法は見つからない。

高次脳機能障害の患者は全国で約50万人、徳島県内には約300人いるとされる。治療で一命を取り留めた後、後遺症として苦しむ患者は少なくない。

主な症状へイラスト参照のほかに、左右どちらかに注意が向かない「半側空間無視」、居場所が分からなくなる「地

高次脳機能障害

約束忘れる ■ 会話が噛み合わない

徳島大学病院高次脳機能障害支援センター副センター長の白山靖彦教授は「社会生活を送る上で、患者に合った環境整備や支援が欠かせない」と指摘する。

例えば、注意障害は二つのことを同時に行うのが難しく、集中力も長く続かない。周囲の人が内容を一つずつ伝え、こまめに休憩を取るよう勧めるといった配慮が必要だ。

一方、表面上はスムーズに受け答えができたが、実際はできないことをできるように話したりするために「おかしい人」と勘違いされる患者がいる。暴言や暴力とい

高次脳機能障害の主な症状

記憶障害

- ・見聞きした内容をすぐ忘れる
- ・何をしていたか分からなくなる



注意障害

- ・ミスが増える
- ・ぼんやりする
- ・気が散りやすい



遂行機能障害

- ・段取りよく行動できない
- ・計画が立てられない



社会的行動障害

- ・イライラしやすく怒りっぽい
- ・状況に応じた行動ができない
- ・自分の障害が理解できない



周囲の理解・支援不可欠

一方、表面上はスムーズに受け答えができたが、実際はできないことをできるように話したりするために「おかしい人」と勘違いされる患者がいる。暴言や暴力といった社会的行動障害による被害を受けるケースもある。患者本人が障害に気付かない、認めようとしな

が病院や福祉サービスを受けるよう促しても拒むため、結果的に必要な支援が受けられないケースも発生している。白山教授は「(高次脳機能障害は)最初に受診した病院で見逃され、自宅に戻って気付くことが多い。医療だけでなく、福祉や行政の関係者にも現状を知ってほしい」と訴えている。

徳島大学病院の問い合わせは、患者支援センター(電話088(633)9107)。

介護家族 6割に抑うつ症状

徳島大学病院の白山靖彦教授が行った調査では、高次脳機能障害の患者を介護している家族のうち、6割近くが抑うつ症状になっていた。中でも、暴力などの社会的行動障

害がある患者の介護は、症状が重い傾向にあるという。

社会的行動障害には、気分がむらがあり、怒りっぽくなるなどの症状がみられる。周囲から人格が変わったと誤解

され、人間関係が悪化して仕事が続けられないケースが多い。こうした症状が、介護者の精神的な負担につながっているとみられる。

白山教授は「介護する家族の負担は社会問題化している。抑うつ症状の早期発見や予防と併せて、家族への支援が急がれる」と話している。